

株式会社ヤマザキ 2021年3月期 第2四半期決算説明資料

2020年11月

6147





目次

- (1) 株式会社ヤマザキとは P.3
- (2) 2021年3月期第2四半期の業績・財務情報 P.9
- (3) 2021年3月期 通期業績予想及び今後の戦略 P.15
- (4) 多角化事業 P.22

(1) 株式会社ヤマザキとは

創業・設立

創業 1946年3月1日

設立 1960年9月1日

沿革

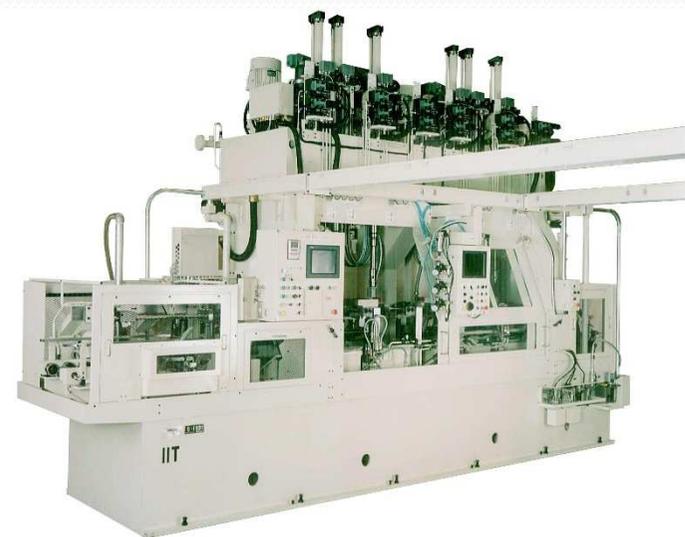
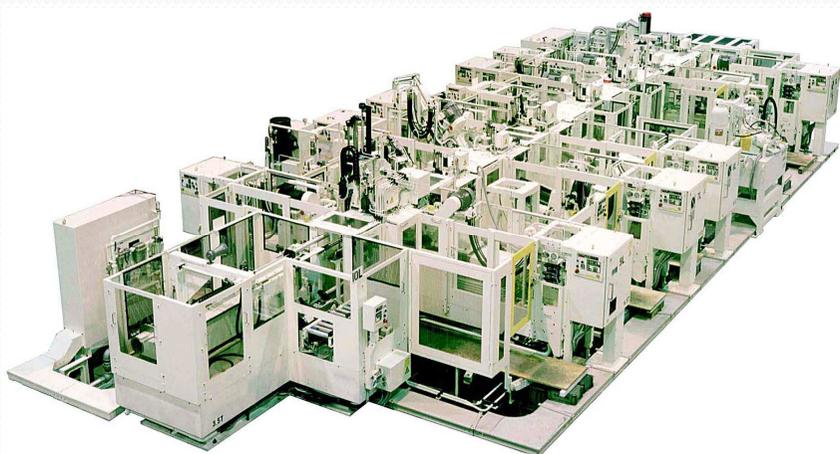
- 1946年 山崎好夫が浜松市寺島町に山崎鉄工所として創業、楽器部品及び専用機・治工具の製造を開始
- 1954年 浜松市浅田町に移転しオートバイ部品の受注を開始
- 1960年 法人組織に改組し株式会社山崎鉄工所を設立
- 1964年 浜松市有玉北町(現在地)に移転し事業拡大を図る
- 1968年 ドリルユニットをはじめとする省力化機器の製造販売を開始
- 1972年 商号を株式会社ヤマザキに変更
- 1987年 第13回発明大賞功労賞を受賞
- 1990年 設立30周年。資本金9億5,840万円に増資し株式の店頭登録（現JASDAQ証券コード番号6147）
- 1991年 本社新社屋完成
- 1992年 都田テクノポリス内にテクニカルセンター完成
- 2000年 ホーニング部門を新設
- 2003年 浜名湖浄化技術発掘事業に参加
- 2004年 ベトナムに現地法人YAMAZAKI TECHNICAL VIETNAM CO.,LTD.を設立
- 2004年 ジャスダックに上場
- 2020年 九州営業所(福岡県京都郡)を設置
- 2020年 設立60周年

事業内容

◆省力関連機器製造販売(FMSユニット・インデックステーブル・スピンドルユニット・多軸ヘッド・タレットヘッド・ドリルユニット・タップユニット・その他)



◆専用工作機械、マシニング、ホーニングマシンの製造販売



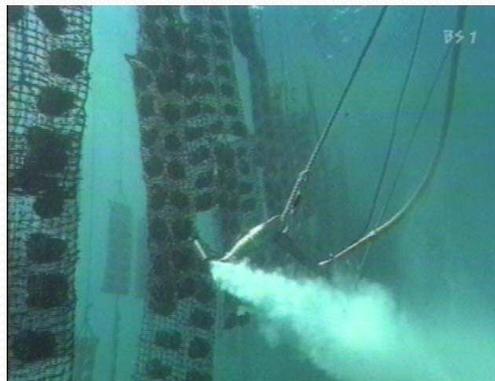
事業内容

◆輸送用機器部品の製造



◆その他

・マイクロバブル技術



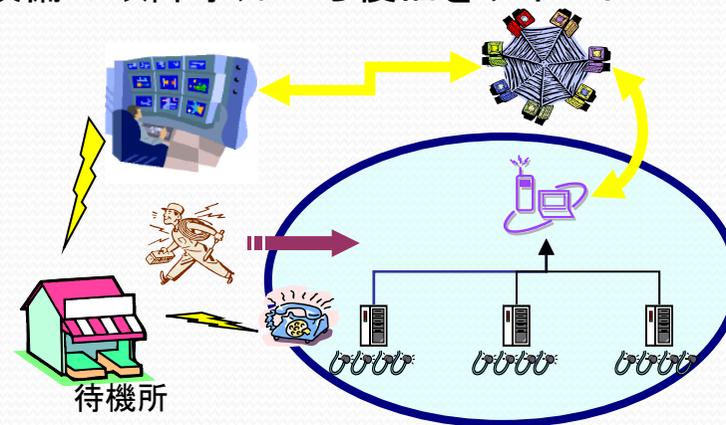
・設備用測定器の製造販売(フルメーター)



事業内容

◆その他

・FA-NET: 機械・設備の故障予知から復旧をサポート



主要取引先

アイシン・グループ／株式会社IJTT／愛知機械工業株式会社／株式会社アツミテック／いすゞ自動車株式会社／カワダ株式会社／株式会社クボタ／京浜精密工業株式会社／上海日立電器有限公司／GKNドライブラインジャパン株式会社／ジヤトコ株式会社／スズキ株式会社／株式会社SUBARU／ダイハツ工業株式会社／株式会社椿本チエイン／株式会社デンソー／トヨタ自動車株式会社／トヨタ自動車九州株式会社／日産自動車株式会社／日本電産トーソク株式会社／浜松ホトニクス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／PT Astra Honda Motor／本田技研工業株式会社／本田金属技術株式会社／マツダ株式会社／株式会社ミクニ／三井精機工業株式会社／三菱自動車工業株式会社／三菱重工業株式会社／株式会社山田製作所／ヤマハ発動機株式会社／UDトラックス株式会社

経営方針

◆「お客様に寄り添い、世界中で必要とされることで企業価値を発展させ、社員の幸福や社会への貢献」を目指すべき企業ビジョンとしております。

◆常に製造業の新たな動向に対応する戦略を遂行し、生産システムを改革

- ①川上である製品開発の強化
- ②川下である在庫管理の強化
- ③生産設備を業態や製品特徴に合わせて最適化

◆最優先事項は、「お客様の生産設備の最適化」

- ・異なる選択要素をうまく組み合わせ、目的達成のために最も適切な設備を構築
- ・マスマタによる効率化と多品種少量生産による高付加価値化という2つの相反する選択要素について、前者には自動化・省人化を高度に追求したシステムを、後者には個別ニーズに細かく対応できるフレキシブルなシステムで対応
- ・マスマタによる効率化に貢献する専用工作機械に加えて、個別ニーズに細かく対応できる汎用性の高いユニットを常に500種類以上整備し、顧客企業に「生産設備の最適化」を積極的に提案



(2) 2021年3月期
第2四半期の業績・財務状況

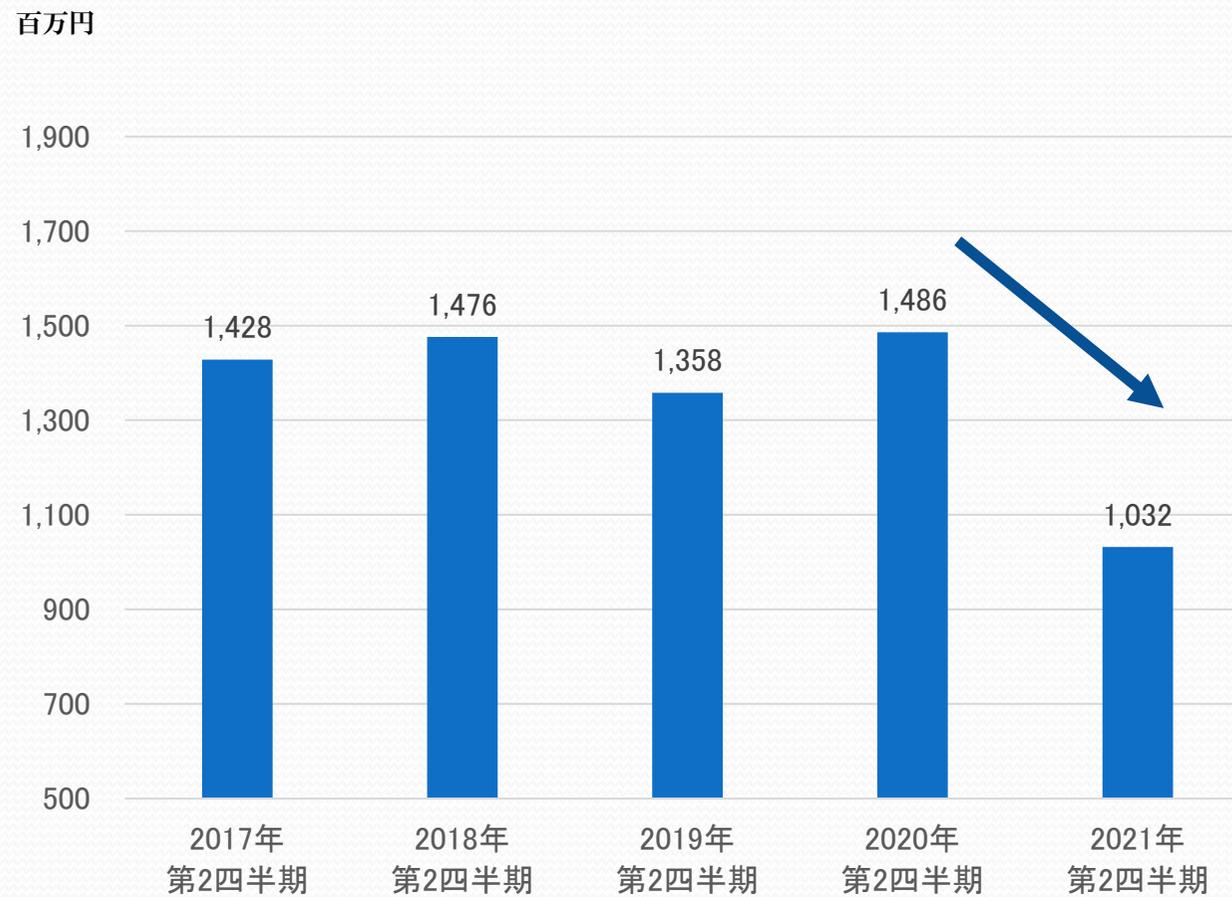
決算概要

	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期
(百万円)					
売上高	1,358	3,372	1,486	3,666	1,032
営業利益	14	297	4	129	△224
経常利益	5	284	0	126	△221
親会社株主に帰属する 純利益	△1	218	5	85	△226
配当(¥)	—	¥5	—	¥10	—

◆売上高は、新型コロナウイルスの影響による客先の設備投資計画の見直しや遅延、同影響による輸送用機器の販売不振により減少した

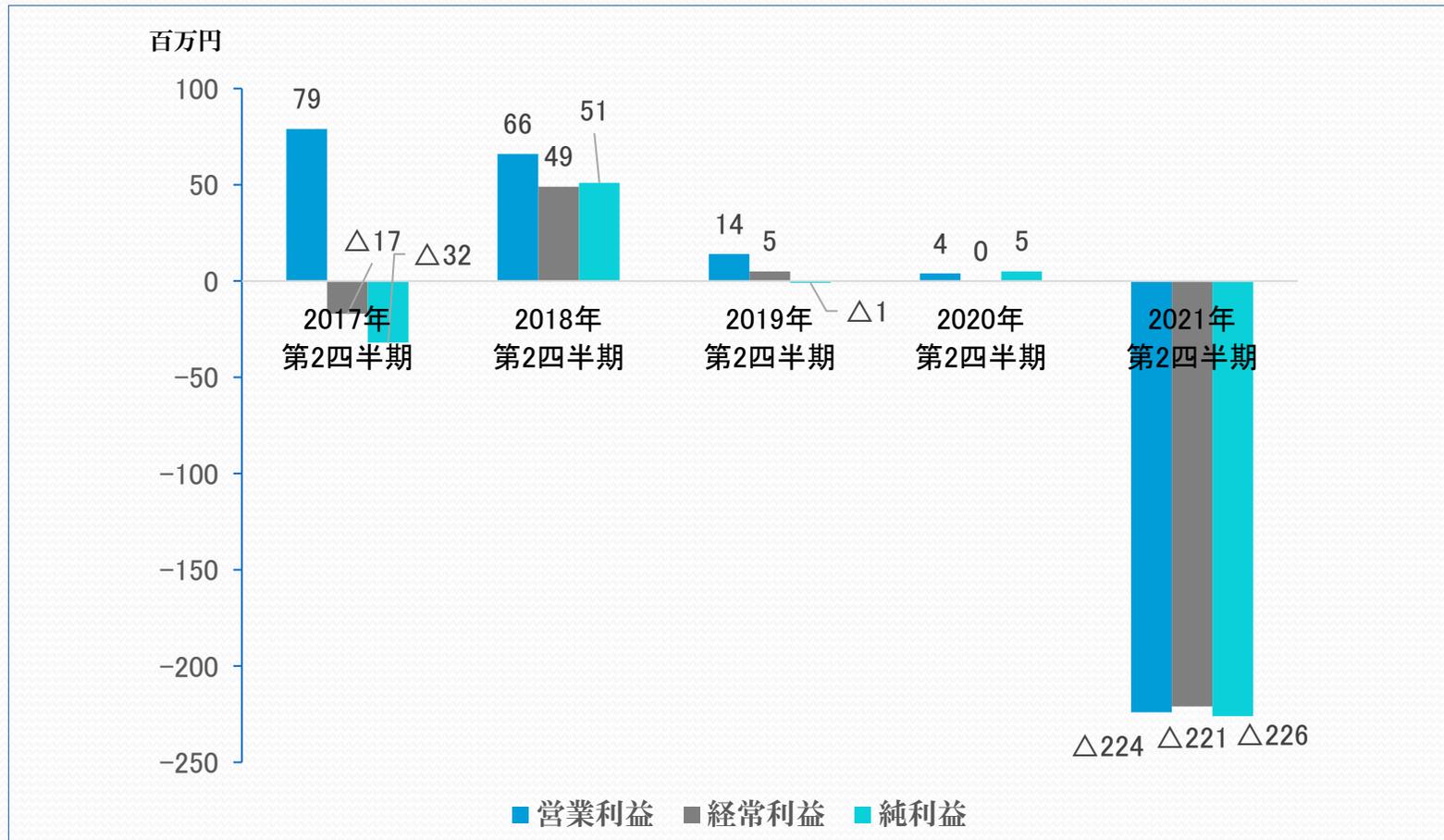
◆利益は、売上高の減少に伴い、固定費の負担が増加したことに加え、工作機械事業においては、物件へのコストダウン要請への対応が響き減少した

売上高の推移



新型コロナウイルスの影響により、売上高は減少した

収益の推移



売上高の減少による固定費をカバー出来ず、工作機械部門においては、物件へのコストダウンの要請への対応が響いた

セグメント別業績推移

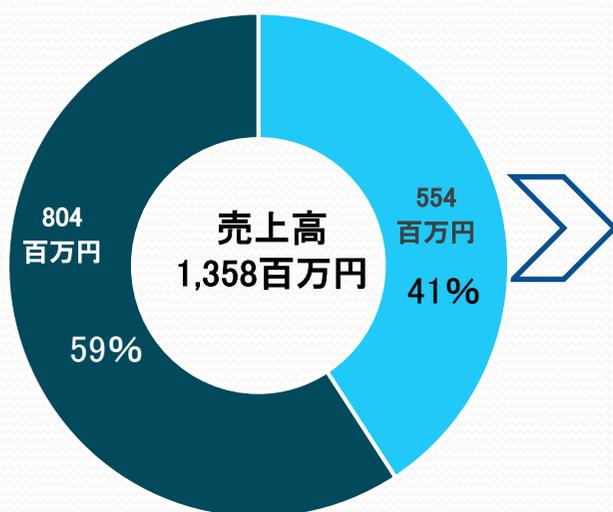
	(百万円・%)	2017年 第2四半期	2018年 第2四半期	2019年 第2四半期	2020年 第2四半期	2021年 第2四半期
工作機械事業	売上高	816	823	804	948	650
	セグメント利益	55	44	9	16	△161
	セグメント利益率	6.6%	5.2%	1.1%	1.7%	—
輸送用機器事業	売上高	612	652	554	537	382
	セグメント利益	15	14	△1	△18	△66
	セグメント利益率	2.5%	2.1%	—	—	—

※ 2021年3月期第1四半期より「自動二輪車等部品事業」を「輸送用機器事業」に名称変更しました。

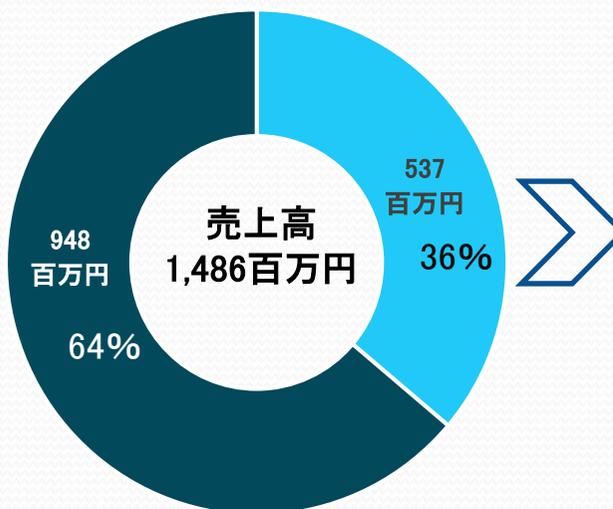
2021年第2四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上高、セグメント利益共に前年同期を下回った

セグメント別売上高の変化

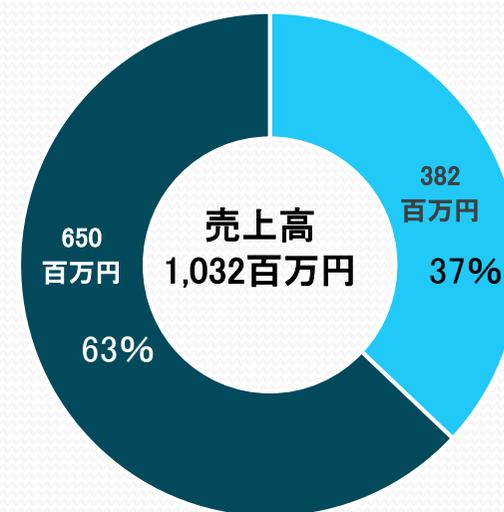
2019年3月期第2四半期



2020年3月期第2四半期



2021年3月期第2四半期



■ 工作機械事業 ■ 輸送用機器事業

売上高におけるシェアは前年同期並みとなった



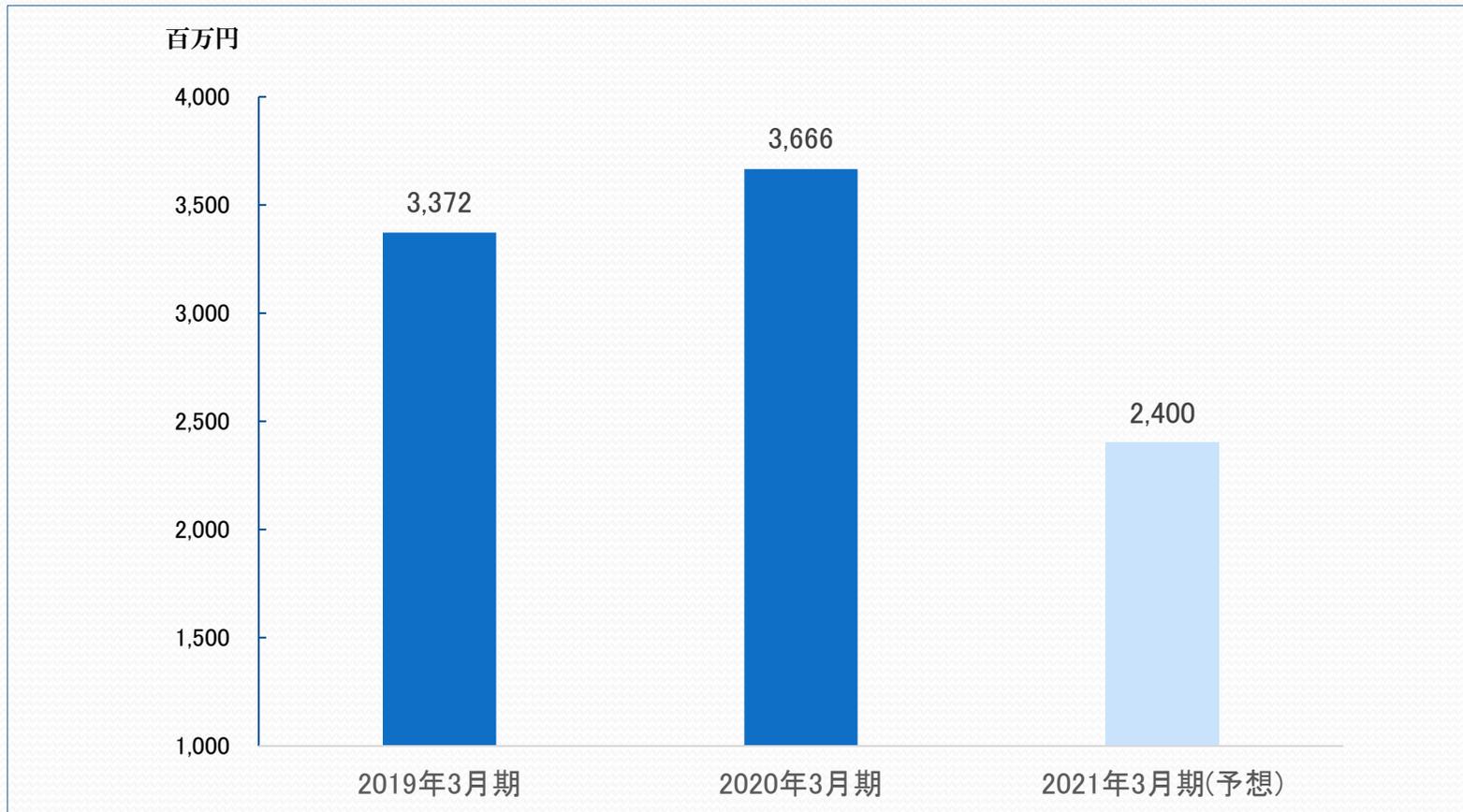
(3) 2021年3月期 通期業績予想及び今後の戦略

2021年3月期の業績予想①

(百万円)	2019年3月期(実績)	2020年3月期(実績)	2021年3月期(予想)	前期比増減
売上高	3,372	3,666	2,400	△34.5%
営業利益	297	129	△210	—
営業利益率	8.8%	3.5%	—	—
経常利益	284	126	△220	—
親会社株主に帰属する純利益	218	85	△225	—
配当	5円	10円	10円(普通配当) 5円(記念配当)	—

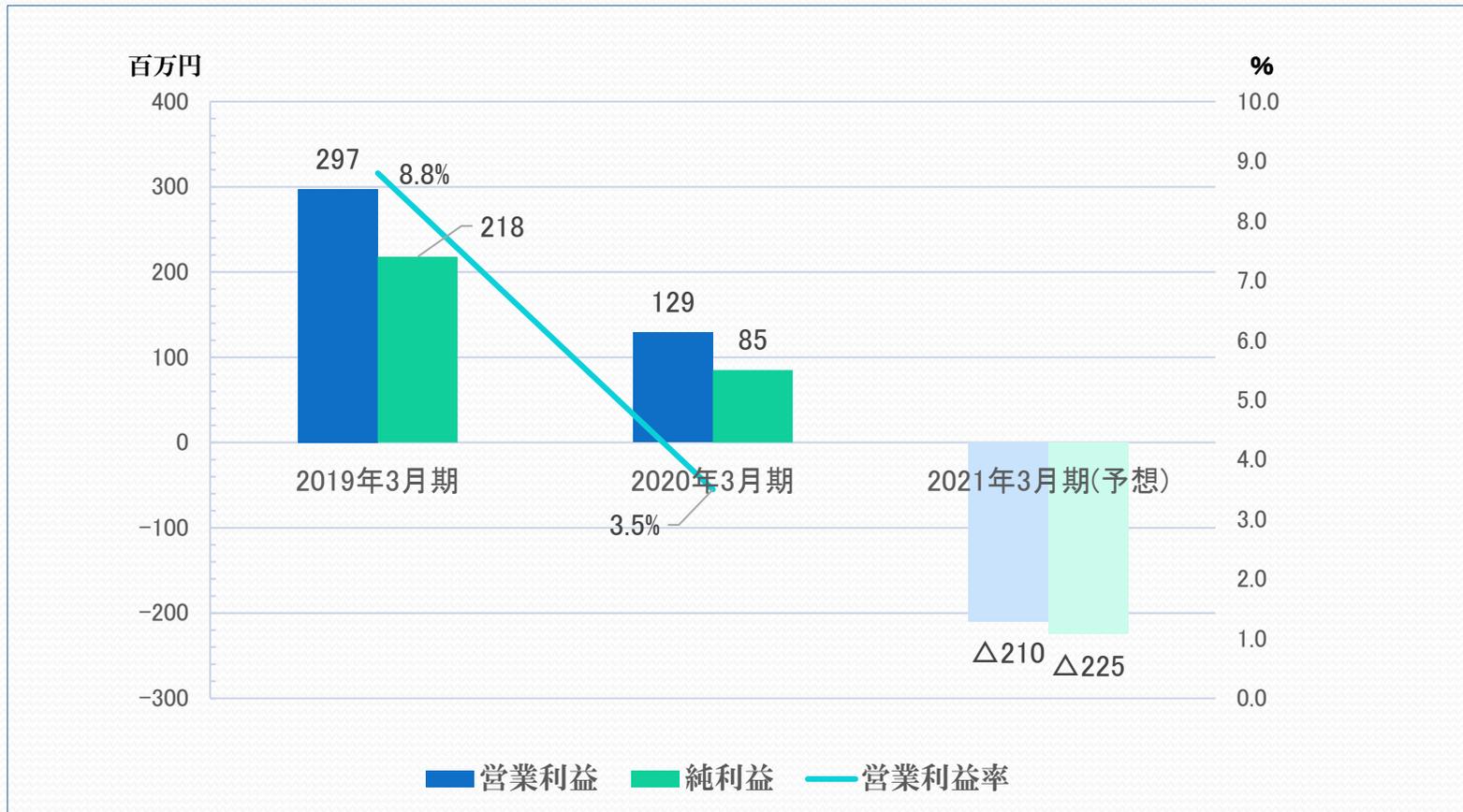
◆ 設立60周年を迎えました 記念配当5円を実施予定です

2021年3月期の業績予想(売上高)②



◆実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

2021年3月期の業績予想(収益)③

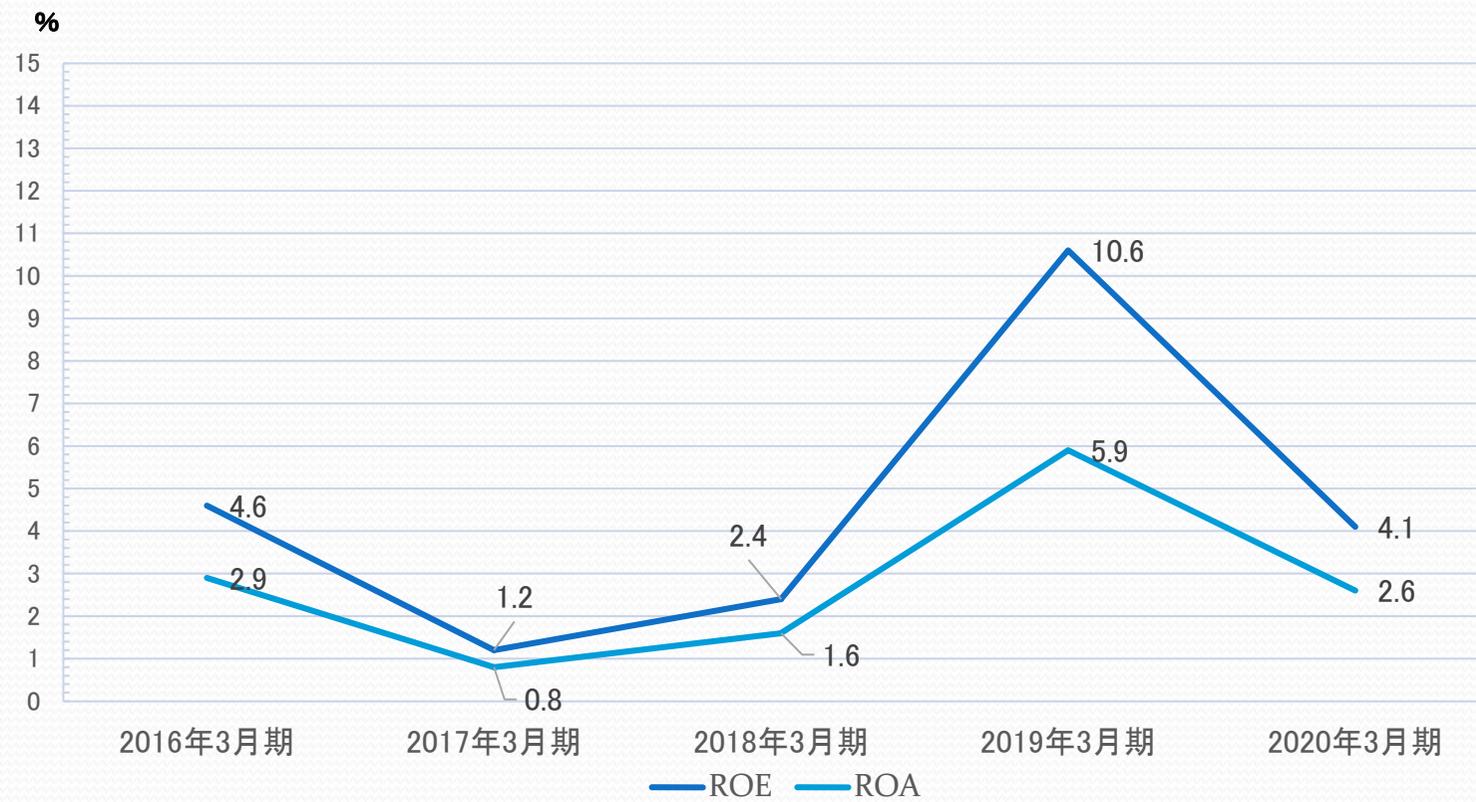


◆次期は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、不透明な部分があります

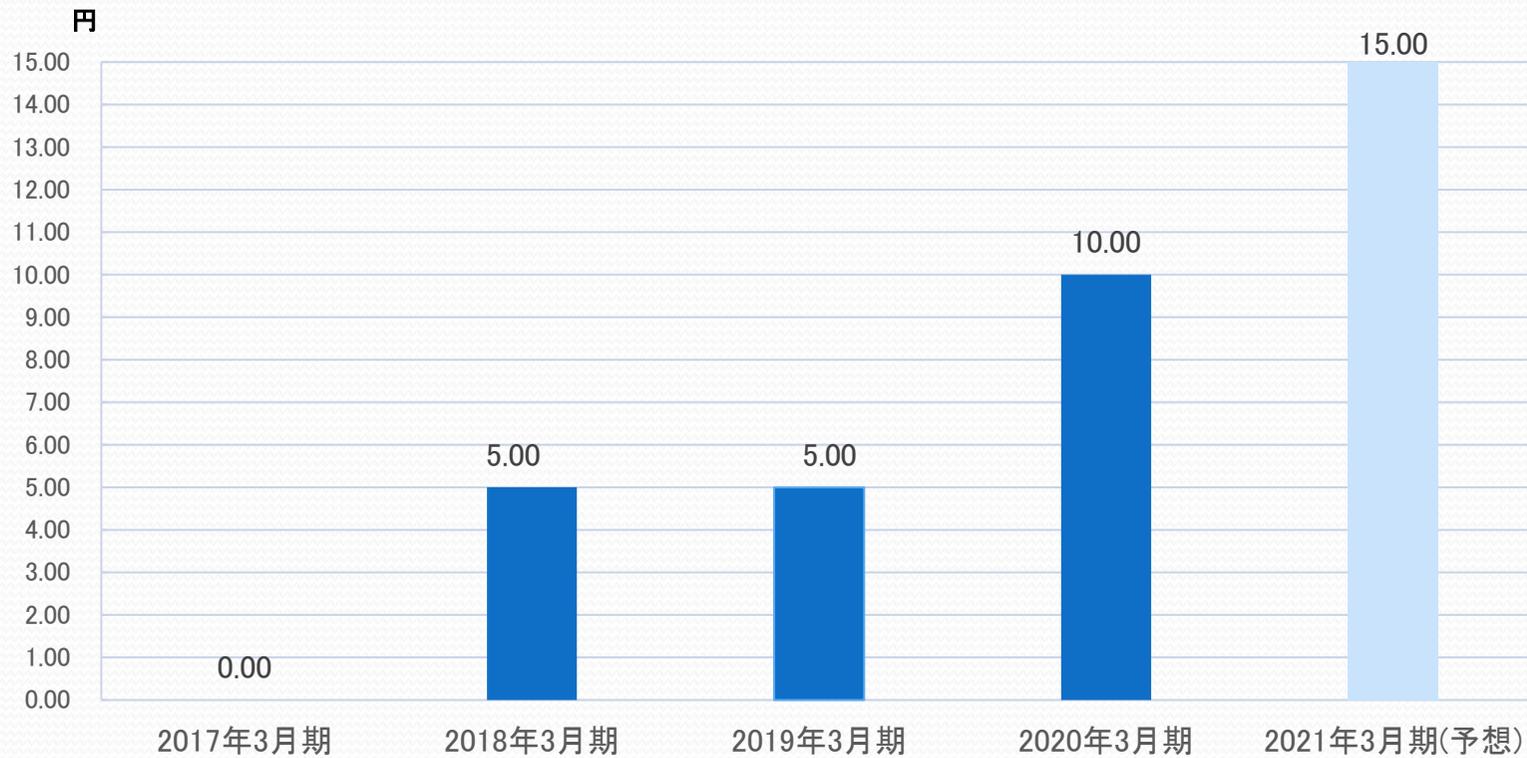
今後の戦略

全体戦略	<ul style="list-style-type: none">◆顧客第一主義◆社内設備のさらなる充実◆高付加価値製品の開発◆生産技術立社を目指す
工作機械事業	<ul style="list-style-type: none">◆500種類以上のユニットと専門技術を駆使した提案型営業の強化◆専用加工機メーカーから精機メーカーへ◆メンテナンスビジネスの強化
輸送用機器事業	<ul style="list-style-type: none">◆バイク以外の量産部品販売の強化
グローバル戦略	<ul style="list-style-type: none">◆ベトナムの現地法人を拠点としたアジア展開の強化
今後の投資方針 資本政策	<ul style="list-style-type: none">◆継続的なROE・ROAの改善を目指す◆継続的・安定的な配当を目指す

ROE · ROA



配当金



2021年3月期(予想)については、普通配当10円・記念配当5円を予定



(4) 多角化事業

①マイクロバブル事業～食品加工分野で実用化を目指す

	内容
<p>◆マイクロバブル事業とは</p> <p>発生時において気泡径がごく微細な気泡を活用する事業</p> <p>◆活用範囲</p> <ul style="list-style-type: none">・水質浄化・水産養殖・部品洗浄・飲料水加工・医療 など	<p>■株式会社ラックランド及び同社子会社ハイブリッドラボとの資本業務提携締結しました。</p> <p>・2019年7月31付で、三者での資本業務提携を締結しました。 株式会社ラックランド及びハイブリッドラボ社の協力を得ながら、かねてより開発及び実用化を進めてきたマイクロバブル技術を利用した貝毒除去等の食品加工技術・設備の研究・開発・製造を行うことで、更なる用途拡大を目指す共に、長年培ってきた工作機械の技術を活かしつつ、新たな事業の確立に向け、更なる企業価値向上を目指します。</p> <p><掲載ホームページ> https://www.yamazaki-iron.co.jp/ir/news/</p>

②メンテナンスビジネス～合併会社設立

	内容
◆メンテナンスビジネス	<p>■ホーコス株式会社と合併会社(HYテクノロジーズ株式会社)を設立しました。</p> <p>・両社は共同で、主にホーコス株式会社製 既存設備の「メンテナンス・改造・転用」を主ミッションに活動し、さらなる信頼向上と事業拡大を目的とする窓口として、新会社(HYテクノロジーズ)を設立しました。</p> <p><掲載ホームページ> https://www.yamazaki-iron.co.jp/ir/news/</p> <p> ホーコス株式会社</p> <p>HYテクノロジーズ株式会社</p> <p> Yamazaki</p>